

天文教育

2017 1

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



〈特集〉ユニバーサルデザイン天文教育研究会

〈年頭挨拶〉2017 年を迎えて —法人化の時代—

天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・ **締め切り**は1は原則として奇数月末日、2～7は偶数月15日。投稿先は post@tenkyo.net です。

・ **広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000、半ページ ¥12,000、1/4ページ ¥7,000、チラシの折り込み ¥20,000です。

※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<http://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。

なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限※をかけた形で閲覧できるようにし、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開いたします。

※今号「事務局からのお知らせ」の末尾をご参照ください。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

金星の輝く夕暮れ

日時：日時：2017年1月1日17時56分、撮影地：鬼無里大望峠（長野市）

年末から年始にかけてよい天気が続いた。連日、夕暮れの西の空に輝く宵の明星と月との競演を楽しむことができました。この金星は、1月中旬には東方最大離角、2月の中旬には最大光度となり、冬の夕暮れを連日に賑わしてくれる。その後、高度を一挙に下げて3月23日は内合ということで、春休みは細い金星を観察する絶好のチャンスになるだろう。

ところで、表紙の写真は、今年の正月元旦の夕

暮れの西の空。月齢3.1の細い月の下に近日点通過の翌日の本田・ムルコス・パイドゥシャーコヴァ彗星（45P/Honda-Mrkos-Pajdušáková）が7等星で輝いている。2月中旬に地球に0.08天文単位まで接近し、6等の明るさで、条件良く観測できると期待されている。そうして、金星の上には火星が見えている。この赤い火星のすぐ傍に8等星の青い海王星が輝いている。最接近時の両者のみかけの離角は、わずか1分30秒角であった。今年は大きな天文イベントは予報されていないが、幸先のよいスタートだ。

撮影と文：大西浩次